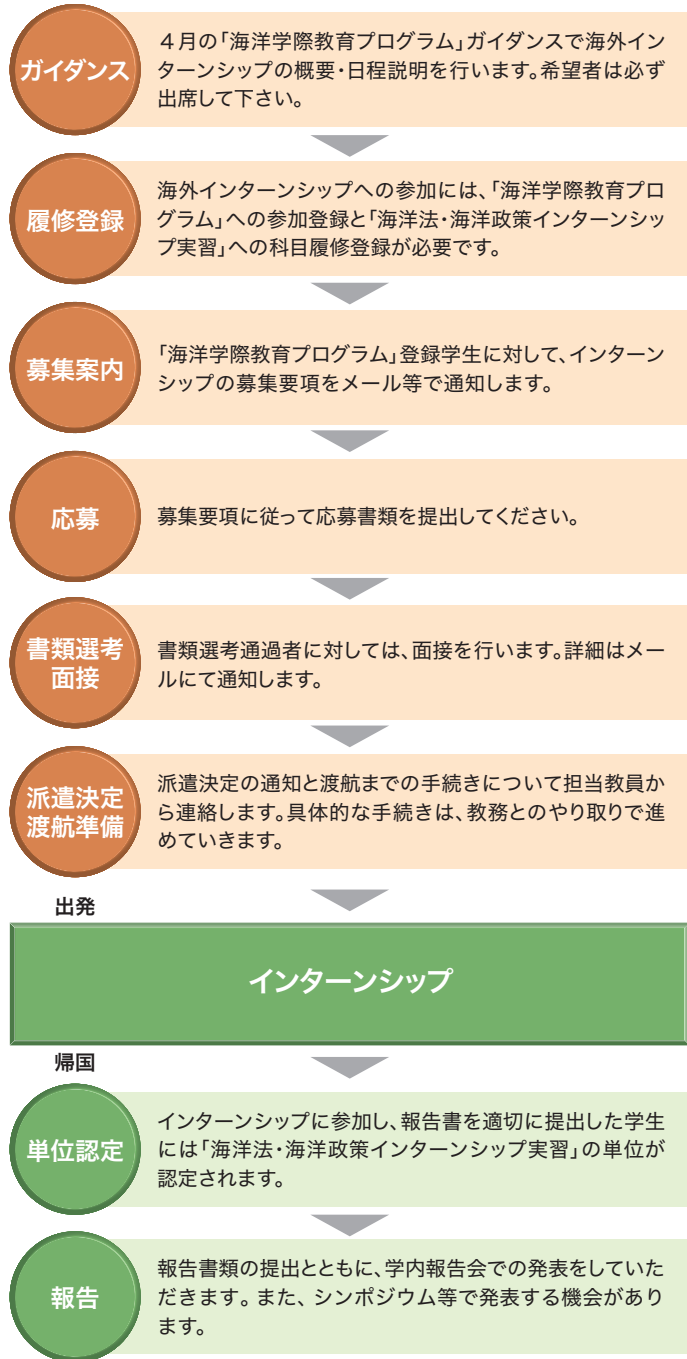


インターンシップの流れ



帰国後の活動

帰国後は、学内で実施される報告会での成果報告のほか、学内講演会、海洋学際教育プログラムが関係するシンポジウムで代表に発表していただきます。

学内講演会

受入機関を中心とした研究者・専門家による招待講演とインターンシップ参加学生の成果報告を国際機関への就職やインターンシップに興味がある本学学生に対して行っています。派遣学生は全員参加となっており、学生同士の横のつながりを作ることができます。



対外発表

海洋学際教育プログラムが関係するシンポジウムやホームページで成果報告を行います。また共同研究を推進したインターンシップの場合には、それ以外に成果を学術論文として各自でまとめていきます。



海洋学際教育プログラムの修了

インターンシップに参加した学生に対しては、海洋学際教育プログラムの修了を推奨しています。

海洋学際教育プログラム 海外インターンシップ



連絡先

東京大学海洋学際教育プログラム事務局

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5 大気海洋研究所

Tel:04-7136-5455(内線:65455) Fax:04-7136-6418(内線:66418)

E-mail:kaigai@oa.u-tokyo.ac.jp

URL:http://www.oa.t-tokyo.ac.jp/

インターンシップ概要

「海洋学際教育プログラム」とは？

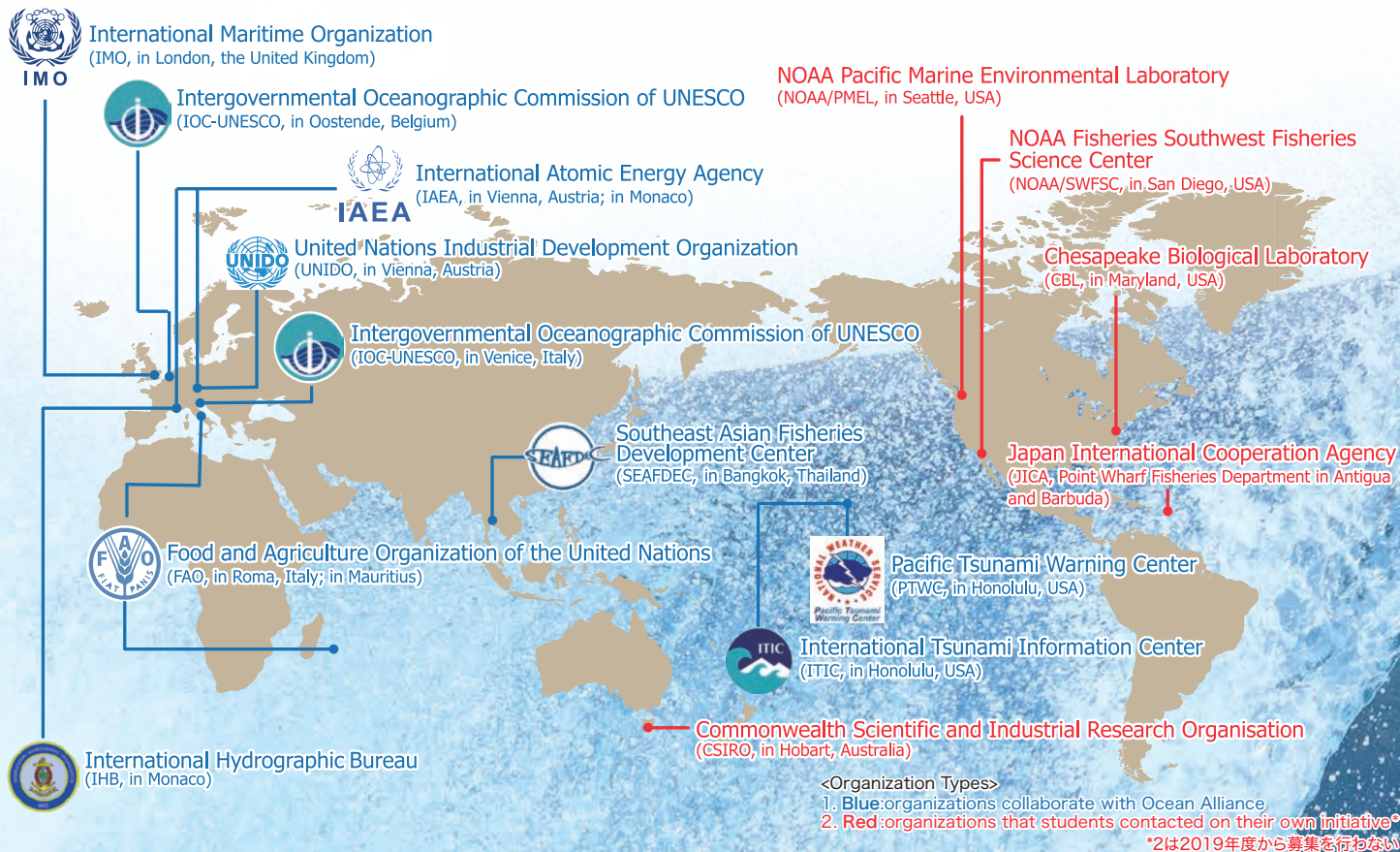
2009年4月に開始されたこのプログラムは、海に関する幅広い教養を備えた人材育成を目的として、東京大学の5研究科が共同して開設した大学院横断型教育プログラムです。このプログラムは、東京大学の大学院生であれば誰でも履修可能で、所定の単位を取得した学生には修了証が授与されます。

海洋法・海洋政策インターンシップ実習

海洋学際教育プログラムの開始に伴って、海洋における様々な課題に係わる海洋法・海洋政策を実例に基づいて総合的に学ぶ目的でインターンシップ実習が開始されました。このインターンシップでは、国土交通省(気象庁、海上保安庁を含む)、国立研究開発法人水産研究・教育機構、公益財団法人環日本海環境協力センター(NPEC)を中心に、毎年約15~20名の学生が派遣されています。期間は2週間~1カ月程度が基本で、海外での実習が含まれるコースもあります。実習参加と報告書提出の要件を満たした場合には、2単位が認定されます。

海外インターンシップ

海外インターンシップは、日本財団FSI基金助成事業によるプロジェクト「国際的な海洋人材の育成とネットワークの構築」の中で行われます。このプロジェクトでは、「海洋学際教育プログラム」の履修生の中から、国際機関や海外の研究機関に2~3カ月派遣を行います。実務体験だけでなく、現状の課題発見と解決の方策を発見・探求する現場対応型の実習・研究を行うことが目的で、連携する国際機関への派遣になります。インターンシップ参加後、報告書を提出した学生には「海洋法・海洋政策インターンシップ実習」の単位が認定されます。2014~2018年度の5年間で、14機関へ45名の学生が派遣されました。連携機関は、国際連合食糧農業機関(FAO)、国際連合工業開発機関(UNIDO)、国際海事機関(IMO)をはじめ9機関となっています。なお、2019年度からは一般枠での募集はありません。



インターンシップ派遣先機関

派遣実績(2014~2018年度)

機関名	派遣地域	派遣学生数/年度				
		2014	2015	2016	2017	2018
国際連合食糧農業機関 (FAO)	ローマ	2	1	-	-	2
	モーリシャス	-	-	1	-	-
国際水路機関事務局 (IHB)	モナコ	1	-	-	-	-
太平洋津波警報センター (PTWC)	ホノルル	1	1	-	-	-
国際津波情報センター (ITIC)	ホノルル	1	1	-	1	-
国際海事機関 (IMO)	ロンドン	-	2	-	2	-
東南アジア漁業開発センター (SEAFDEC)	バンコク	-	1	1	2	-
国際連合工業開発機関 (UNIDO)	ウィーン	-	-	4	5	3*
国際原子力機関 (IAEA)	ウィーン	-	-	2	1	-
	モナコ	-	-	-	1	-
ユネスコ政府間海洋学委員会 (UNESCO/IOC)	オステンド	-	-	1	-	1
	ヴェニス	-	-	1	-	-
国際協力機構 (JICA)	アンティグア・バーブーダ	1	-	-	-	-
アメリカ海洋大気庁/太平洋海洋環境研究所 (NOAA/PMEL)	シアトル	-	1	-	-	-
アメリカ海洋大気庁/南西水産科学センター (NOAA/SWFSC)	サンディエゴ	-	-	1	1	-
オーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO)	ホバート	-	-	1	-	-
メリーランド大学附属 チェサピーク海洋生物学研究所 (CBL)	メリーランド	-	-	-	1	-
合計		6	7	12	14	6

※紹介1名を含む



海外インターンシッププログラム Q&A

- Q** インターンシップへの渡航・滞在費への援助はありますか？
- A** 本インターンシップにかかわる学生の渡航、滞在などの費用は、日本財団の助成を受けて海洋学際教育プログラムから原則として全額支援されます。ただし、支給内容は派遣先機関によって異なりますので、詳細は派遣決定後に通知します。
- Q** インターンシップに参加する場合の必須条件を教えてください。
- A** 派遣先機関のスタッフとともに業務や研究に取り組むのはもちろんですが、帰国後に2種類の報告書(全体報告書(日本語)、成果報告書(英語))を提出することが必須条件になります。